

2-1 平面図



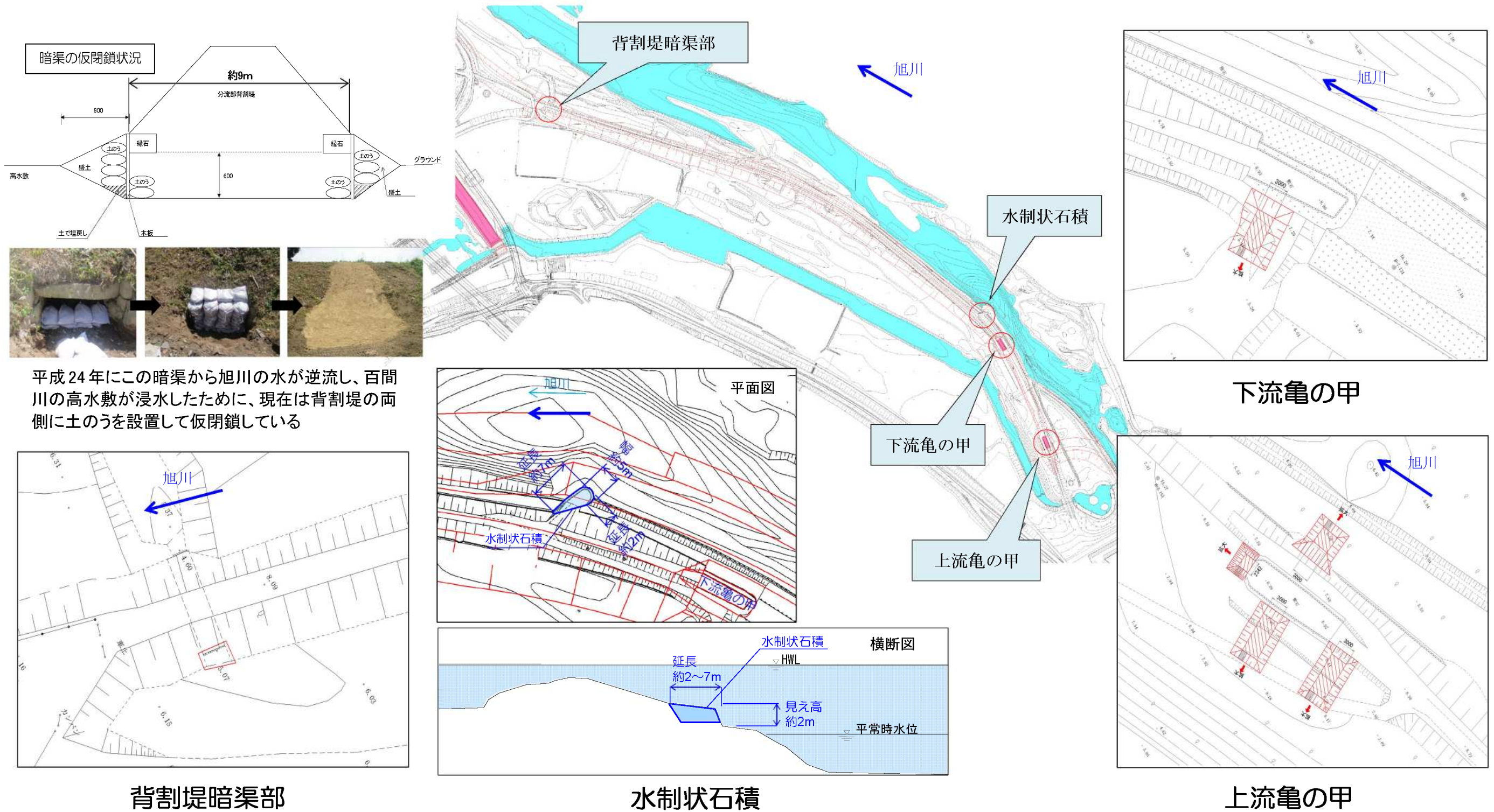


## 2-2 平成26年度試掘調査の概要

実施日：平成26年5月16日～28日（予定）

試掘対象：上流亀の甲、下流亀の甲、背割堤暗渠部

作業内容：掘削、石積みの清掃、簡易計測・記録調査



平成24年にこの暗渠から旭川の水が逆流し、百間川の高水敷が浸水したために、現在は背割堤の両側に土のうを設置して仮閉鎖している



## 2-3 平成 26 年度試掘調査の状況 (1)

### 調査時の状況 (上流亀の甲)



① 下流側端部 (正面)



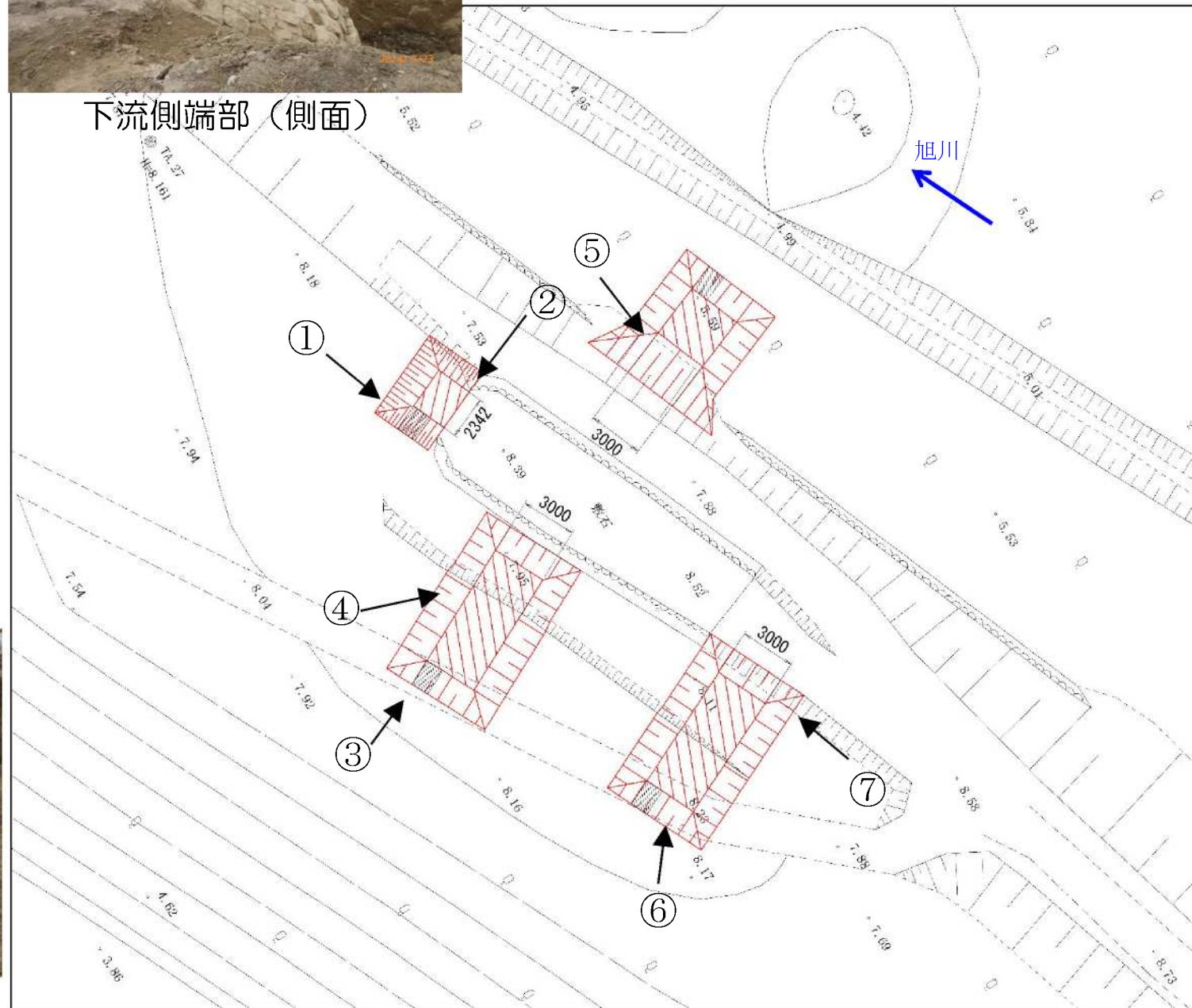
② 下流側端部 (側面)



③ 亀の甲側面 (百間川側)  
天端から 5.3m



④ 亀の甲前面に石積みが存在



⑤ 旭川側の試掘状況  
(旭川の石積護岸があり、亀の甲前面の掘削はしていない)



⑥ 上流側端部



⑦ 上流側端部

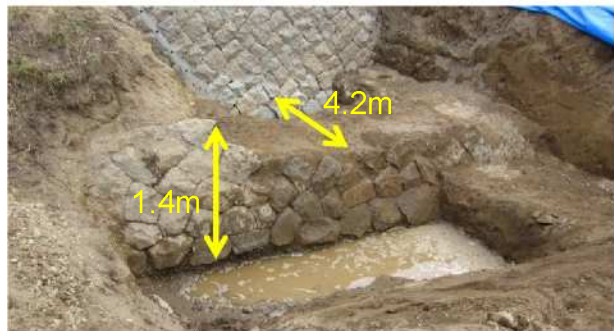


## 2-3 平成26年度試掘調査の状況(2)

### 調査時の状況(下流亀の甲)



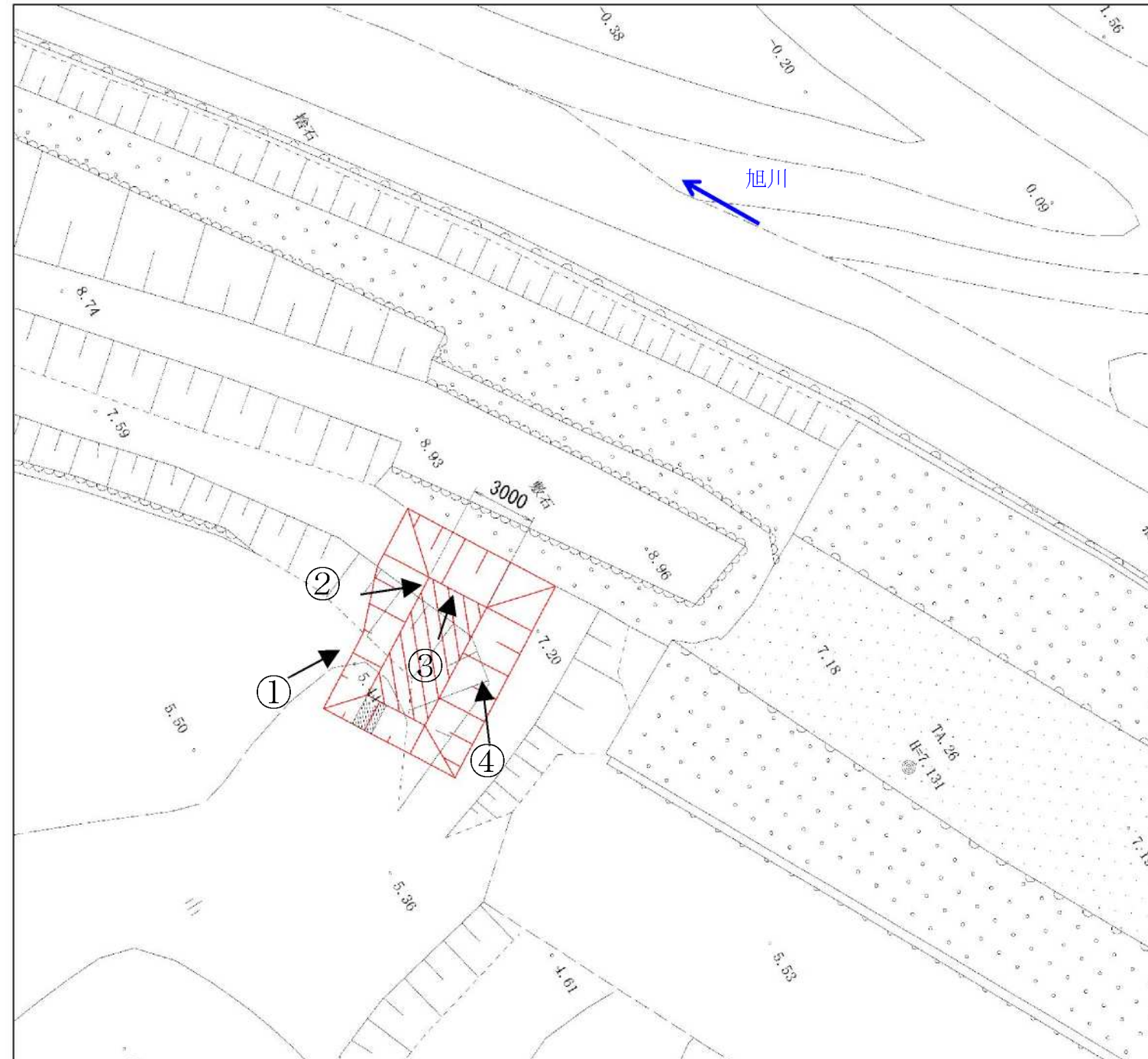
亀の甲側面(百間川側)



亀の甲前面にも石積みが存在



亀の甲側面(百間川側)



基盤部の状況



亀の甲側面(百間川側)



## 2-3 平成26年度試掘調査の状況（3）

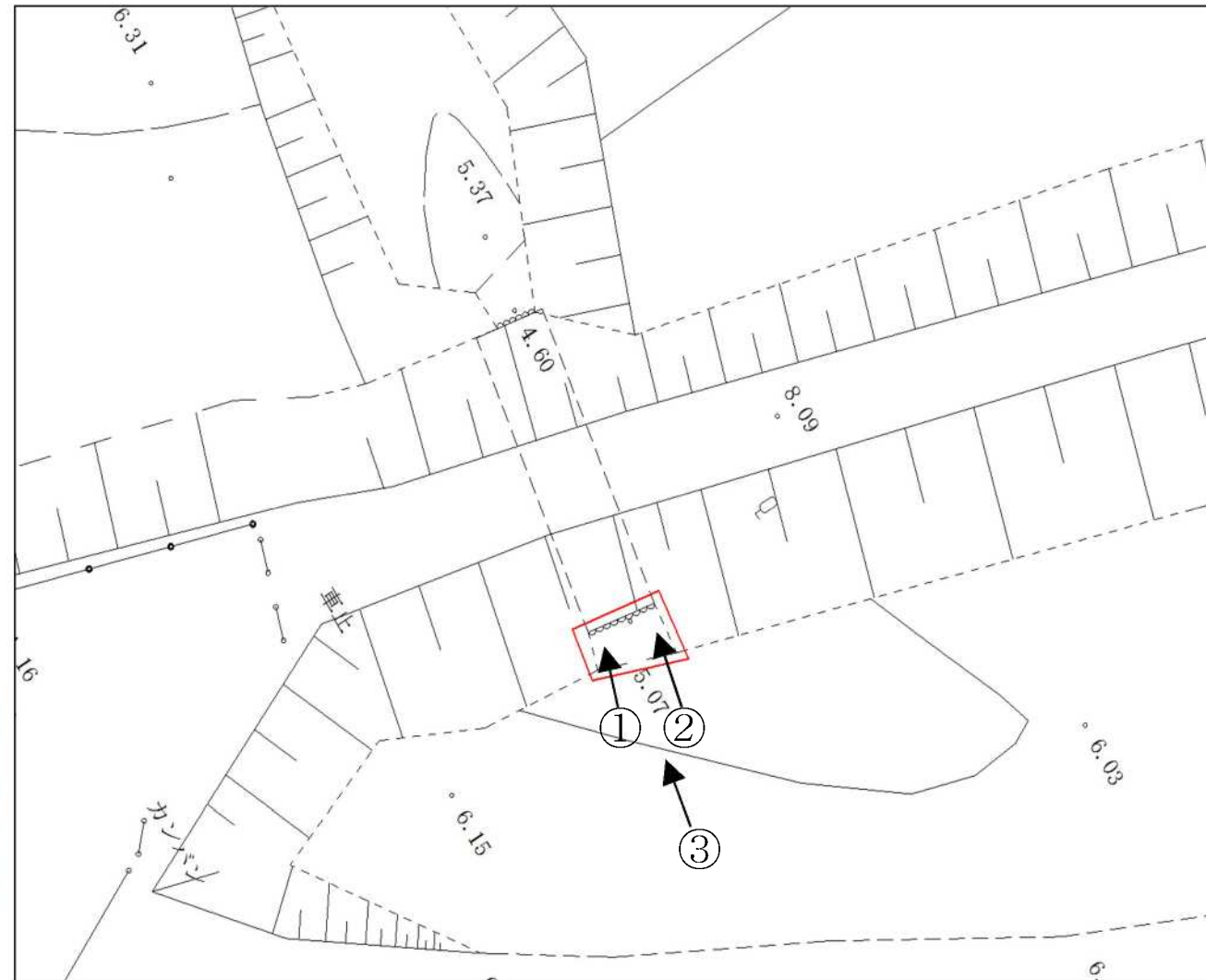
### 調査時の状況（背割堤暗渠）



① 暗渠内部の状況



② 暗渠内部の状況(B2.2m×H1.2m)  
底部も石張り構造



③ 呑口部掘削状況  
(呑口部には石積みの水路跡が一部確認できる)

写真：岡山県教育庁文化財課提供



## 2-4 一の荒手（亀の甲）の築造当時と現状の比較

### ■当時の絵図との比較

#### 文化11年当時

##### 上流亀の甲

延長：三十間（約54.6m）

高さ：六尺（約1.8m）

##### 越流部

幅：七十間（約127.4m）

##### 下流亀の甲

延長：不明

高さ：七尺（約2.1m）

#### 現在

##### 上流亀の甲

延長：18.2m

高さ：0.5m（地上部）

##### 越流部

幅：139.0m

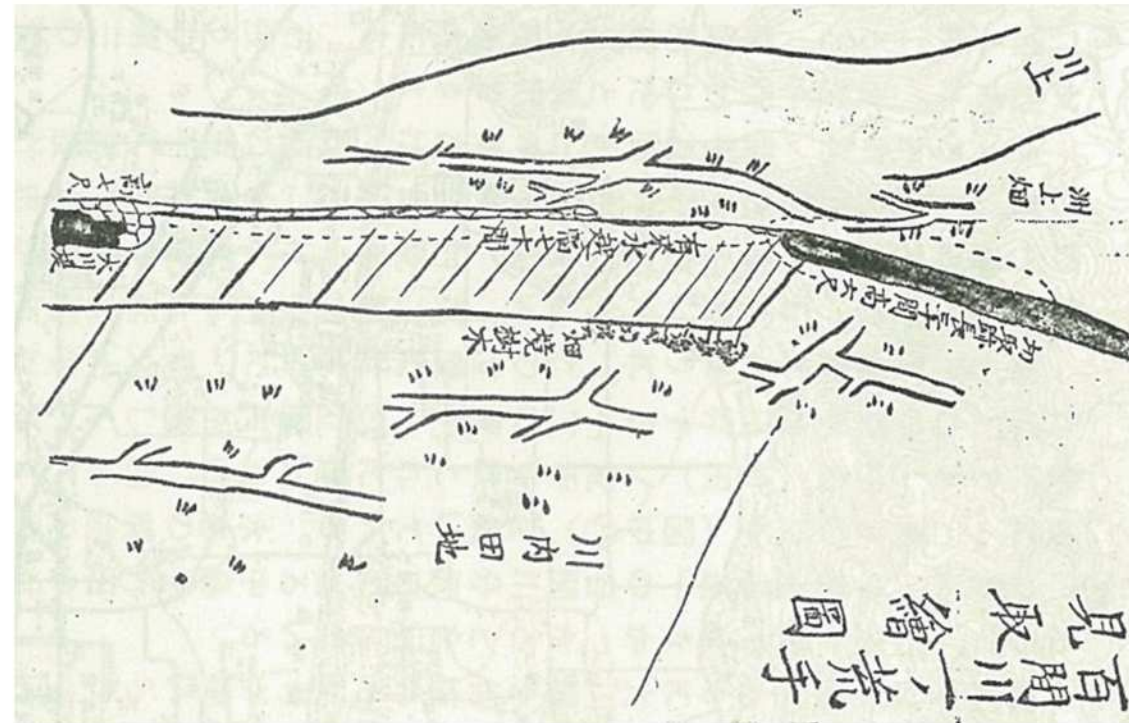
##### 下流亀の甲

延長：17.9m

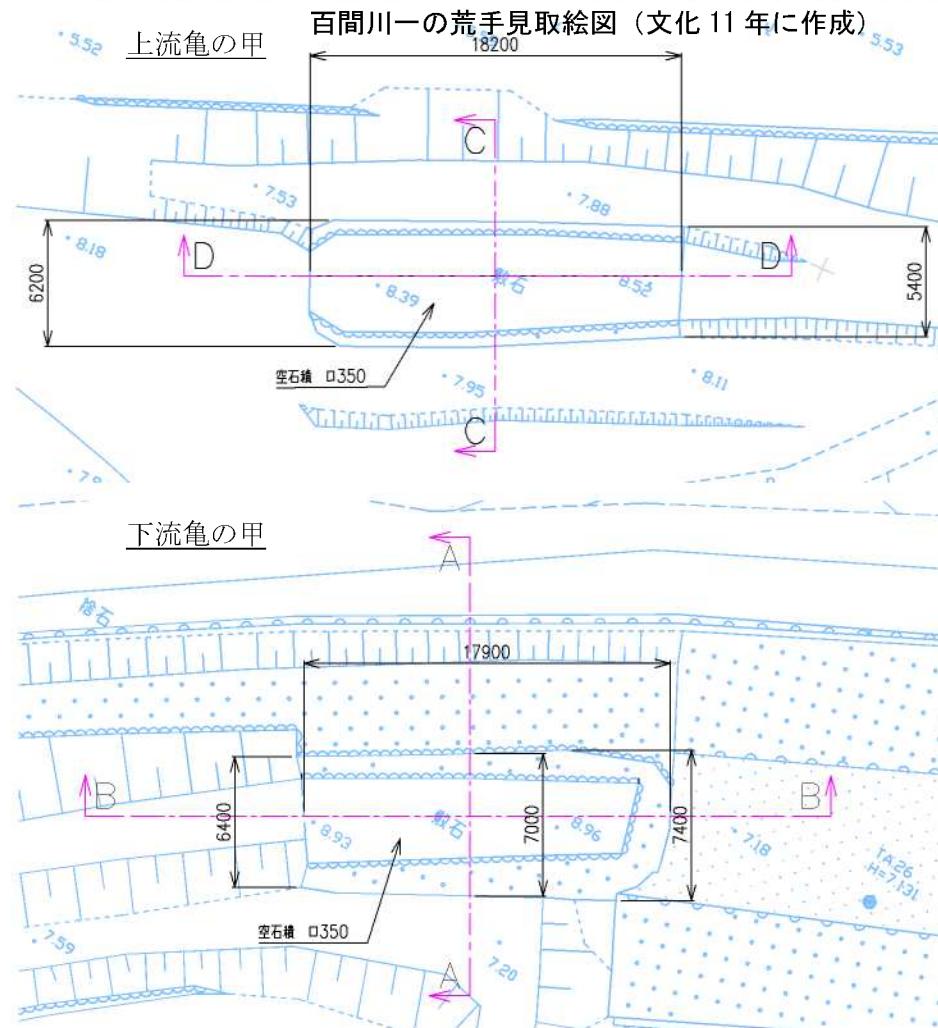
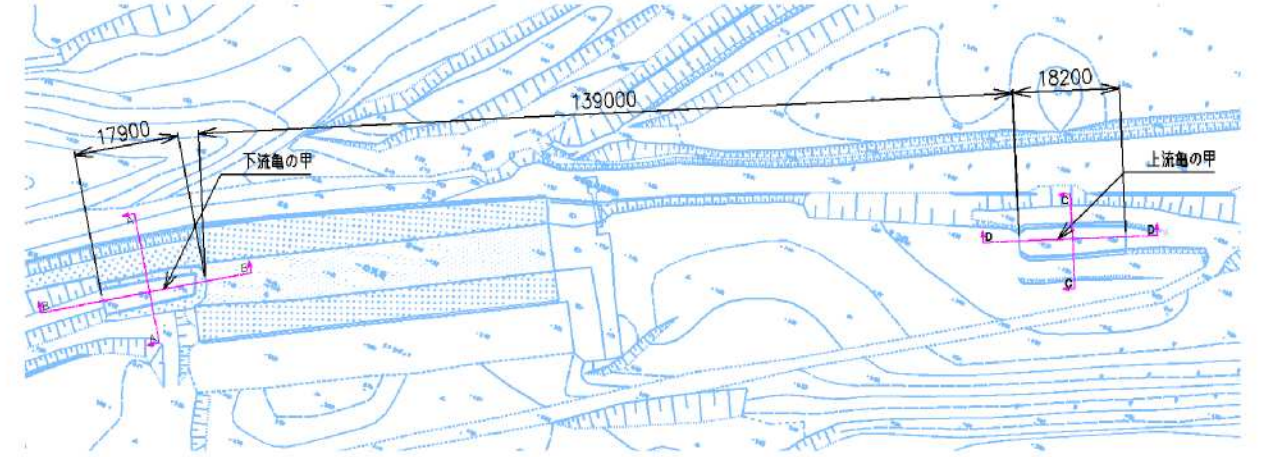
高さ：1.6m（地上部）

#### 所見

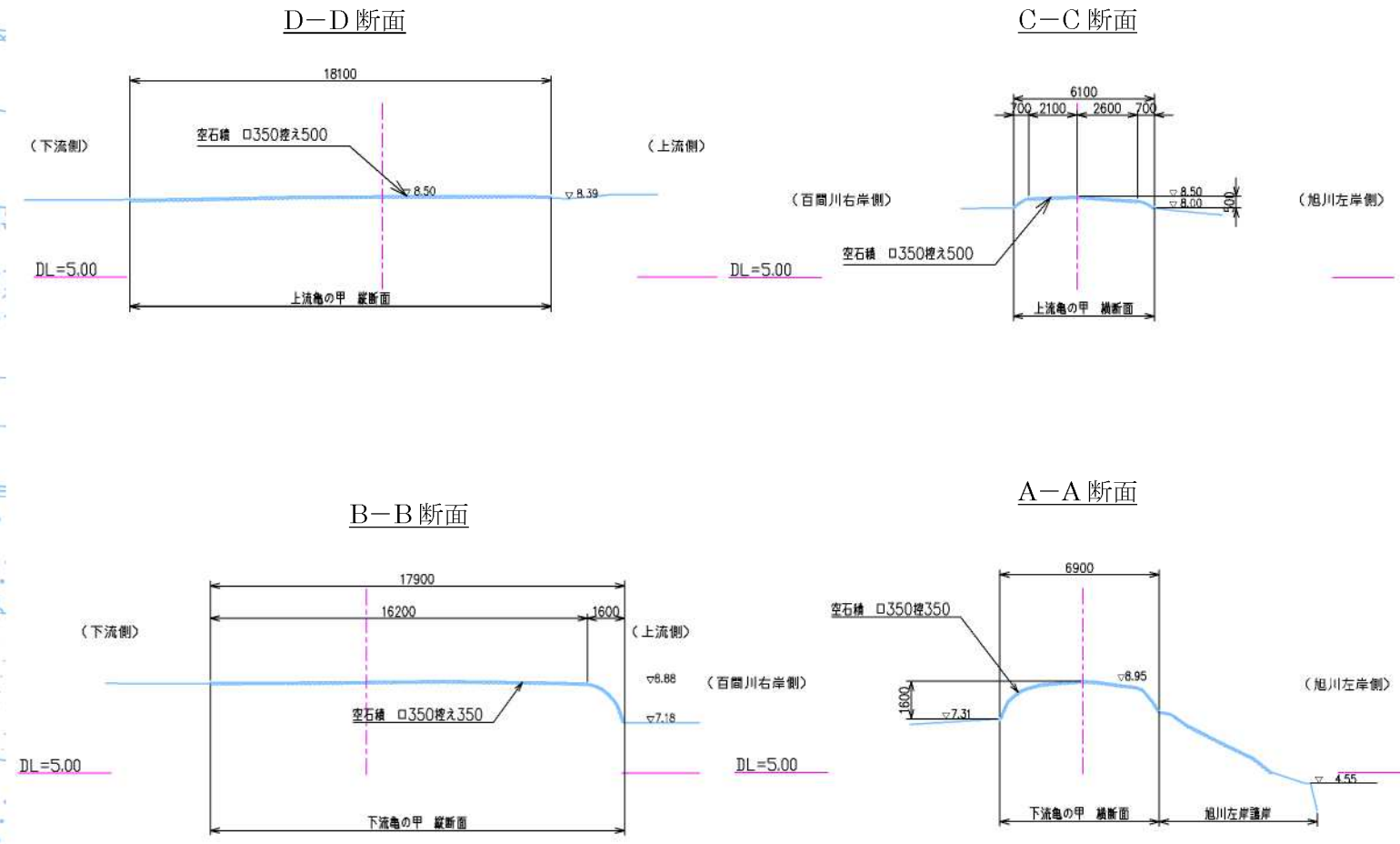
- 上流亀の甲は、文化11年と比べ大幅に延長が減少している。
- 越流部の延長は、現在の方が10mほど長い。
- 現在の亀の甲の高さは地上部のものであり、また、当時の高さも埋設部を含んだ高さであるかが不明であるため、比較は困難である。



全体平面図



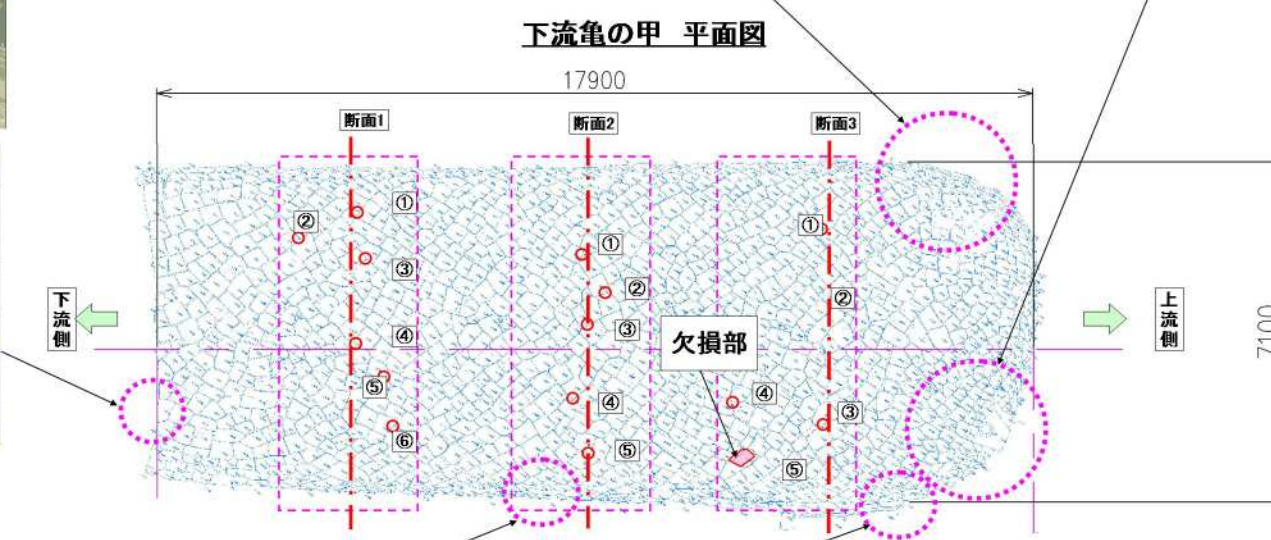
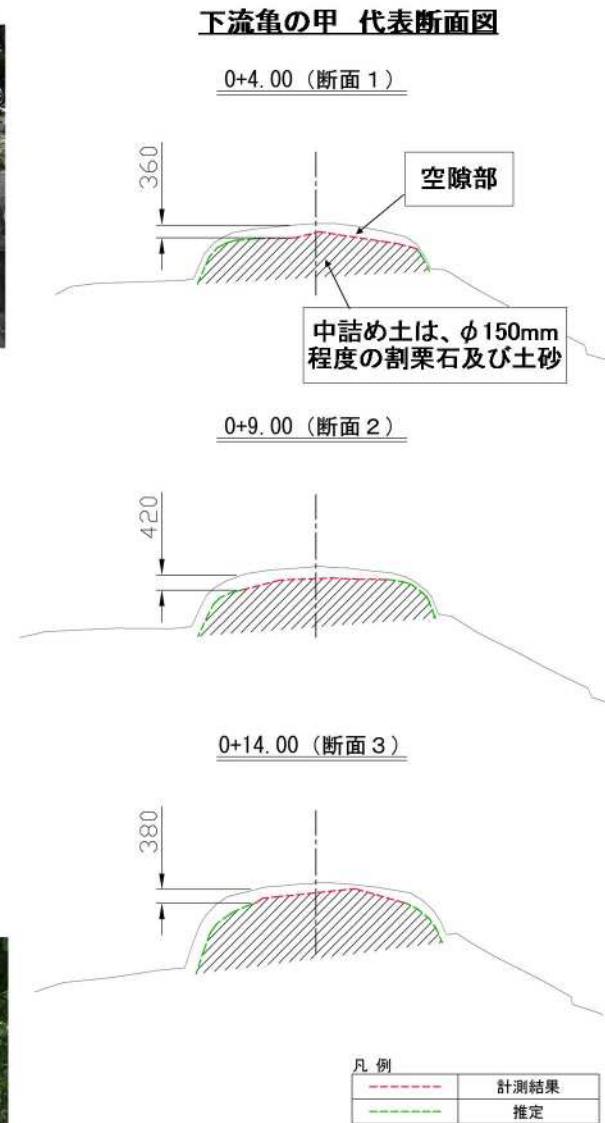
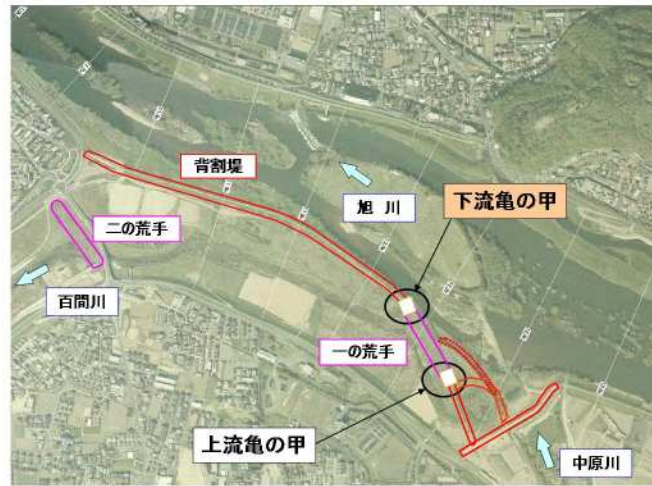
一の荒手測量図（平成21年に作成）





# 2-5 一の荒手（亀の甲）の現状

## ■一の荒手 亀の甲の状況 ① 【下流亀の甲】



- 【下流亀の甲の状況】
- 石積みは「1層」で、全体的には緻密に積まれているが、先端部の積み直し部は隙間が多い。
  - 石材の控えは350~400mm前後。
  - 空隙は300mm~400mm程度で、ほぼ全面に及んでいると思われる。
  - ただし、石と石の間の土砂が吸い出された状態であり、石が「浮いている」状態ではない。
  - 中詰め土は「土砂」及び「栗石」で比較的「密」に詰まっている。
  - 樹木の根は、その大きさから中詰め土のかなり深い位置まで達しているものと思われる。  
→現状のままでの完全な伐採・伐根は困難



H20調査時に伐採したが、H24現在、しっかりと生育している





■一の荒手 亀の甲の状況 ② 【上流亀の甲】



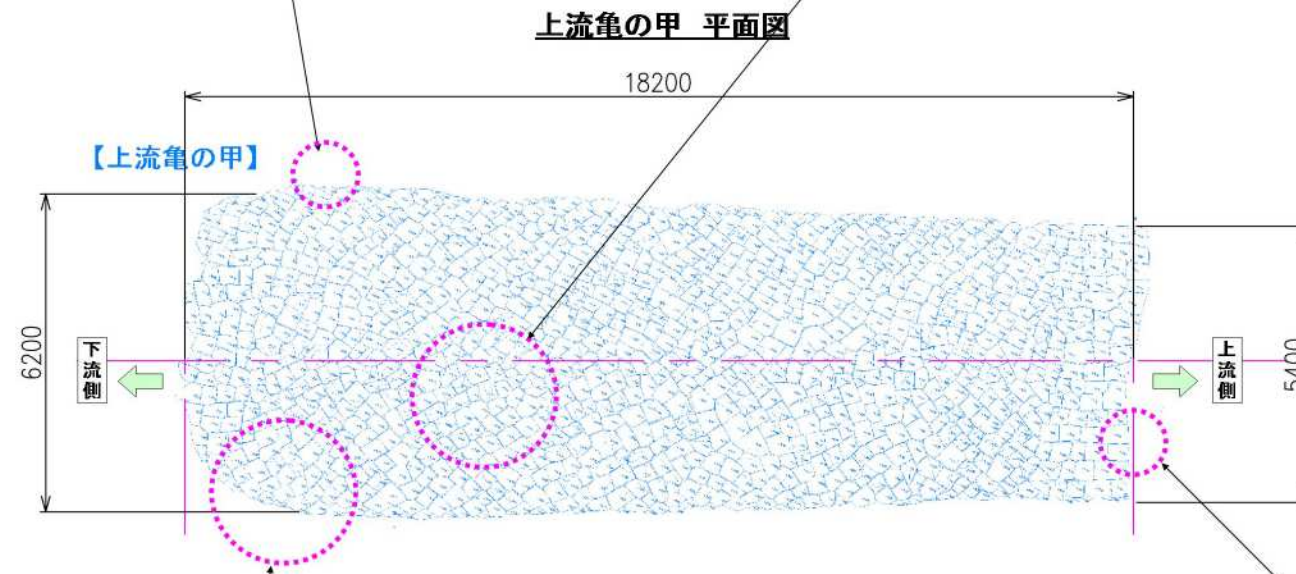
根入れ1.0mまで確認



すき間は300~400mm

【上流亀の甲の状況】

- 上流の亀の甲はほぼ土中に埋まっており、樹木もないため、下流ほど大きな空隙は見られない。
- 石材の控えは500mm前後（上流端妻部）。
- 根入れは1.0mまで、石張りは一層であることも確認されており、全体の構造は下流亀の甲とほぼ同様であると考えられる。
- 大きな空隙は見られないものの、胴込め部の空隙は300mm~400mm程度で、ほぼ全面に及んでいると思われる。



上流亀の甲の表面



上流亀の甲 下流側先端付近



石材の大きさ  
350×350×500程度



石張りは「一層」

■一の荒手 越流部



【越流部の状況】

- 越流堤はコンクリートで被覆され、百間川側の堤脚部にはコンクリートブロック（護床工）が設置されている。
- これらの補修・補強は昭和初期のものと推定される。

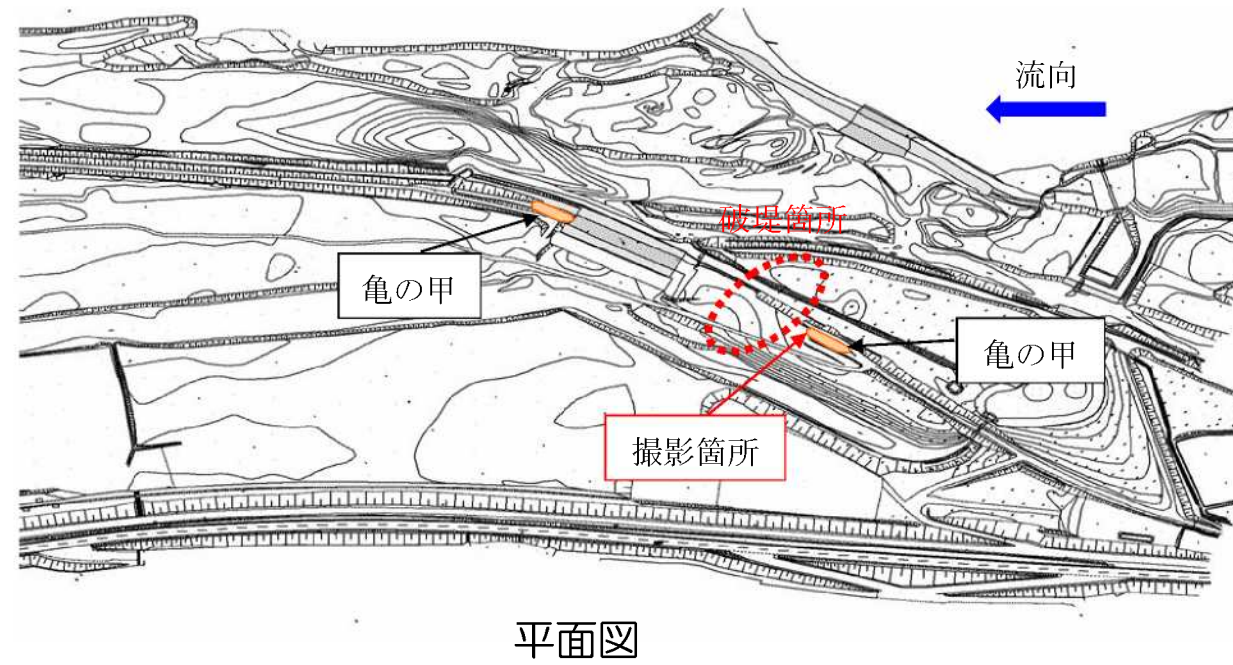


## 2-6 平成10年の被災状況

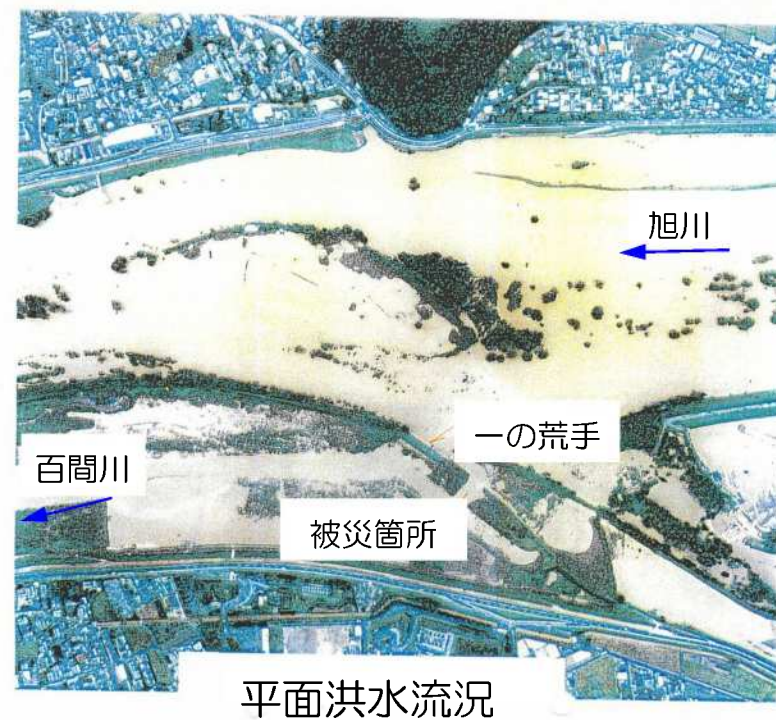
### <被災状況>

平成10年10月洪水時の百間川分流部被災状況（日時：H10.10.18<1998>）

- 旭川本川流量 4310m<sup>3</sup>/s、旭川流量 3436m<sup>3</sup>/s、百間川流量 874m<sup>3</sup>/s



破堤部の上流亀の甲石張り表面を望む





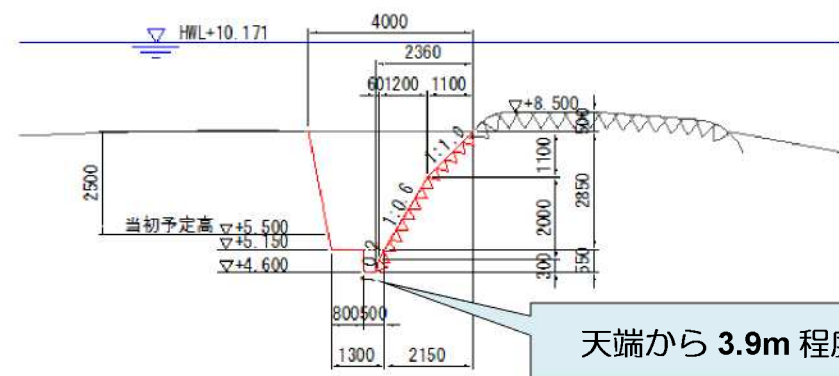
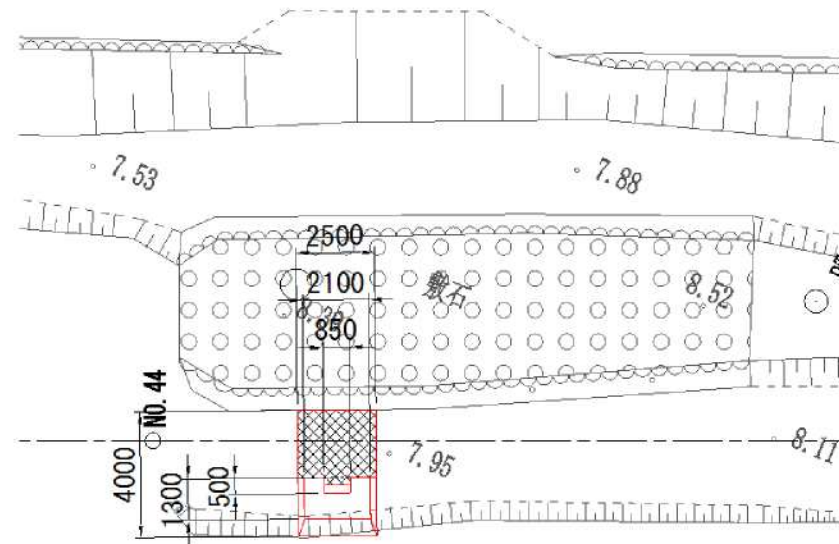
## 2-7 平成 25 年度試掘調査の概要

実施日 : 平成 26 年 3 月 17 日~18 日

試掘対象 : 上流亀の甲

作業内容 : 掘削、石積みの清掃、簡易計測及び調査、埋め戻し

### 調査結果



埋没部石積みの写真



石材のずれが見られる  
ずれは最大で 5cm 程度である



石材間の隙間が見られる  
隙間は最大で 4cm 程度である



石材の大きさは概ね  
25cm~45cm 程度



石材控は 35cm 程度  
と思われる